

# 2010 年度日本建築学会大会（北陸）

## 建築デザイン発表会

### 発表梗概応募要領

会場：富山大学

期日：2010 年 9 月 9 日(木)～11 日(土)

第 3 回を迎える「建築デザイン発表会」は、2010 年 9 月 9 日（木）から 11 日（土）まで 2010 年度大会（北陸）・富山大学において開催いたします。

この建築デザイン発表会は、会員が設計・計画した建築デザインを発表・議論する場を大会のなかに設けて設計系会員の学会活動への参画を促し、設計系の実務者、教員、大学院生等に建築デザインの評価の機会を提供するとともに、実務・大学院等における設計教育、ひいては設計の質の向上に資することを目的としています。

ここでいう建築デザインとは、設計の論理性、工学的・技術的裏付け、実現した効率性・経済性の根拠等が明確なデザインをいいます。発表にあたっては、以上の主旨がよく伝わるよう表現してください。

2010 年度大会で発表する建築デザイン発表梗概を下記の要領で募集いたしますので、ふるってご応募ください。

発表の方法は、発表用ポスターを掲示し、PC 用プロジェクターを使って講演発表を行います。詳細は後日「大会プログラム」および本会ホームページで公表いたします。

なお、下記事項に十分ご留意のうえご応募ください。

- 1) 講演発表は正会員（個人）・準会員に限ります。
- 2) 同年度の学術講演会の講演発表者は建築デザイン発表会の講演発表者になることはできません。
- 3) 講演発表者および共同発表者に 2009 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者、2009 年度論文予約購読費未納者がいる場合は応募できません。
- 4) 論文予約会員以外は発表登録費を請求書に記載の期限までに納入しなければなりません。
- 5) 大会に参加する場合は発表登録費とは別に大会参加費が必要になります。
- 6) 代理講演は一切認められていません。
- 7) 建築デザイン発表会は、公開の場で発表しそれが議論されることを目的としていますので、欠席の場合は発表とは認められません。
- 8) 応募締切（2010 年 4 月 16 日(金)17 時）は厳守です。学術講演の締切と異なりますので注意してください。
- 9) 締切後の原稿の訂正は一切認められていません。
- 10) 原稿執筆要領に示されている基準を大きく逸脱した原稿は不採択の対象となります。

電子投稿の大会コードは半角小文字で”toyama”です。

### 応募規程

#### 1. 対象

- a. 本会会員の設計・計画した建築デザイン（国外に立地するものを含む）とし、実施作品、計画案、大学の卒業設計、大学院の設計課題等を含む。
- b. 建築物の意匠設計ばかりではなく、構造設計、環境・設備設計等の技術分野の設計、まちづくり・景観・団地・広場などの都市・地域デザインや造園の設計、保存・修復・復元等の設計、インテリア・家具・ディテールのデザイン、その他建築にかかわる設計を幅広く含む。

2. 応募・発表資格 発表者（講演発表者および共同発表者）の資格は次による。

#### 2.1 講演発表者（○印）

- a. 正会員（個人）・準会員であって、発表登録費を期限までに納入した者。ただし論文予約会員の発表登録費は免除する。
- b. 2009 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者、2009 年度論文予約購読費未納者は応募できない。

#### 2.2 共同発表者（連名者）

- a. 正会員（個人）・準会員であって、発表登録費を期限までに納入した者。ただし論文予約会員の発表登録費は免除する。
- b. 2009 年度会費未納者、2007 年度以降の大会発表登録費未納者、2009 年度論文予約購読費未納者は応募できない。
- c. 会員外であって、発表登録費を期限までに納入した者。

3. 発表者の権利・義務 発表者の権利、義務は次のとおりとする。

- a. 講演発表者（○印）は、建築デザイン発表会に出席し、1名1題に限り講演発表を行うことができる。
- b. 講演発表者は必ず大会に参加し講演発表をしなければならない。共同発表者の代理発表は認めない。
- c. 共同発表者（連名者）は、名を連ねる梗概の題数に制限はないが、講演発表を行うことはできない。
- d. 講演発表者の出席・欠席は学術推進委員会に報告され、記録として保存される。また、欠席の講演番号は本会ホームページにおいて公表される。
- e. 同年度の学術講演会の講演発表者は建築デザイン発表会の講演発表者になることはできない。

4. **応募方法** 建築デザイン発表の応募は電子投稿に限る。ウェブ上の建築デザイン発表申込書および建築デザイン発表梗概原稿の送信をもって応募とする。なお、締切後の原稿の訂正は一切認めない。

5. **応募部門** 応募部門は、テーマを定めない一般部門と、テーマおよび招待講評者をあらかじめ公表するテーマ部門のいずれかとし、建築デザイン発表申込書の所定欄に応募部門を明記する。

5.1 **一般部門**

一般部門は、テーマの制約を設けない部門で、プログラム編成会議で発表セッション分けを行う（当面は募集時に分類を設けない）。

5.2 **テーマ部門**

テーマ部門のテーマおよび招待講評者は年度ごとに定める。2010年度のテーマ・招待講評者は別表による。テーマ部門は1テーマあたり最大20題とし、招待講評者がプログラム編成時に選ぶ。テーマ部門に選ばれなかったものは、一般部門で発表する。

6. **発表方法** 発表の方法はポスター展示を伴う講演発表とする。発表方法等の詳細については、学術推進委員会が公表する。講演発表に際しては会場に備え付けられた機器（PC用プロジェクター）以外の使用はできない。

7. **応募期間**

期 限：2010年2月19日（金）から4月16日（金）17時（厳守）（学術講演の締切日と異なるので注意されたい）

提出先：http://www.aij.or.jp/jpn/d-taikai2010/

8. **建築デザイン発表梗概の採否** 建築デザイン発表梗概の採否は、学術推進委員会が決定する。下記条項等に照らし建築デザイン発表梗概として不適当と認められるものは採択しない。不採択となった場合は5月20日までに本人に通知する。

- a. 梗概に記された内容が著しく不十分なもの。
- b. 内容が商業宣伝に偏したもの。
- c. 応募規程、執筆要領に反するもの。

9. **発表登録費** 発表登録費は表一による。ただし、留学生の会員の発表登録費は応募申込み時に申請があれば減額する。

表一 発表登録費

種 別	発表登録費	講演発表	共同発表
論文予約会員	免除	可	可
正会員・準会員	9,000円	可	可
留学生の会員	2,000円	可	可
会 員 外	13,000円	不 可	可

- a. 数題にわたって応募する場合も発表登録費は1題分とする。
- b. 講演発表者（○印）は発表者を代表して共同発表者の発表登録費の納入の義務を果たすものとし、全員の発表登録費の納入のない場合は、当該建築デザインの発表ができない。

c. 発表登録費未納者は、2011年度以降の学術講演会および建築デザイン発表会に応募できない。

10. **大会参加費** 大会に参加する者は前記9の発表登録費とは別に大会参加費（表一2）を納入するものとする。

表一2 大会参加費

		事前	当日
正会員	一般	4,000円	5,000円（会員証提示）
	大学院生	2,000円	3,000円（会員証提示）
準会員		無料（会員証提示）	
会員外	一般	7,000円	8,000円
	登録メンバー	5,000円	6,000円（履修登録カード提示）
	大学院生	3,000円	4,000円（学生証提示）
	学部学生	無料（学生証提示）	

11. **梗概集** 採択された建築デザイン発表梗概はDVD版大会梗概集（学術講演梗概と建築デザイン発表梗概を収録）および冊子版建築デザイン発表梗概集に収録し、頒布する。なお、発表登録費納入者にはDVD版大会梗概集および冊子版建築デザイン発表梗概集を無償で送付する。

12. **著作権**

- a. 建築デザイン発表梗概の著作権は応募者に帰属するものとし、本会は編集出版権をもつ。
- b. 梗概の複写権、翻訳権は本会に委託するものとする。
- c. 著作権の侵害等の問題は応募者がすべての責任を負う。建築デザイン発表梗概集は電子形態によって公開されることを前提に、写真等については他者の著作権を侵害しないように十分注意する。

13. **電子形態による公開** 建築デザイン発表梗概集は、本会および本会が許諾したウェブサイトから全ページが公開される。

14. **講評等**

- a. テーマ部門では講評者が1～2題の建築デザインを顕彰する。
- b. 大会終了後に講評者の講評を「本会ホームページ」に掲載する。

テーマ部門のテーマ・招待講評者

2010年度のテーマ部門のテーマ・招待講評者は下記のとおりである。

a. **蘇生する建築**

内田祥哉（東京大学名誉教授）

社会の急激な変化によって、陳腐化、機能低下、利用変更などがおきたにもかかわらず、優れた技術と、デザインによって、再び社会に復帰し、生き生きと蘇生する建築。

b. **環境と共生する建築・都市**

岩村和夫（東京都市大学教授）

「環境」の範囲は広く、互いに入れ子の構造を持つ。そこに挿入される地球環境時代の建築・都市の姿は、「共生」という関係性の概念でイメージできる。エネルギーや資源に限らず、幅広い環境共生への取り組みを求めたい。

c. **高複合建築**

古谷誠章（早稲田大学教授）

従来の建築計画は機能別で、法規上も用途の峻別が求められる。だが昨今は異種機能のシナジーや建物の部分改修など、より積極的な機能複合が図られる事例も少なくない。高複合に関し問題提起力のある作品を期待する。

d. **それぞれの歴史と自然に出会うまちづくり**

中川 武（早稲田大学教授）

北アルプスの初雪が瑞々しいのは、時を経てきたものが変わらずそこにあるから。まちに住むことの、ゆずれぬ根拠が文化に置かれるのは、それが間違いなく歴史と自然に深

く根ざしているから。小さなその循環の痕跡に出会うことの新鮮さが求められている。

## 発表会実施要領

### 1. 発表の方法

講演発表者は、会場の定められたパネルに時間割に沿ってポスターを掲示し、定められた場所で PC 用プロジェクターを使って講演発表および質疑応答を行う。会場・時間割は学術推進委員会プログラム編成会議が決定する。

### 2. 講演発表時間

1 題あたり 8 分（質疑応答を含む）

### 3. ポスター

ポスターは A2 判 2 枚（縦使い、左右並列）とし、原則として発表梗概を拡大したものとする。モノクロ、カラーは問わない。

### 4. ポスターの掲示

ポスターは画紙でパネルに貼れるように作成し、発表者が当日会場に持参し、各自で掲示・取り外しを行う。

## 原稿執筆要領

### 1. 用紙設定

白地の A4 判 2 ページとする。ワープロソフト等で上マージン 15mm、下マージン 15mm、左右マージン 15mm、として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要領に反するものとして不採択となる場合がある。冊子版梗概集は A4 判で印刷される。

### 2. 記載方法

下記の項目をレイアウト見本に準拠して記載する。レイアウト見本はホームページ上で提供する。

#### a. 1 ページ目上段

- ・和文・英文で、表題、会員種別・発表者名・所属を記載する。
- ・会員種別・発表者名（連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける）は上段に記載する。
- ・連名者で、設計統括責任者・指導教員等を明示する必要がある場合は、その者の氏名の前に※印をつけることができる。※印を付した場合は、その役割を註記する。

#### b. 2 ページ目上段

- ・和文・英文で所在地（計画案の場合は適宜、とくに住宅等では建築主のプライバシーを考慮して表記する）、主な用途、敷地面積、建築面積、延べ床面積、キーワード、特記事項・データ等を記載する。

### 3. 設計趣旨・説明文・図表および写真

設計趣旨（600 字以上）・説明文・図表・写真等は適当と思われる場所にレイアウトする。設計趣旨・説明文の文字の大きさは 8 ポイントを原則とする。図表および写真は原稿に貼り付けた状態で PDF 化し、別ファイルにはしない。発表者以外が撮影した写真等を使用する場合は、著作権に十分注意する。

### 4. キーワード

発表申込書に記入したものと同一キーワード 3～6 個を必ず記述する。用語は日本建築学会「学術用語集—建築学編」から選ぶことを基本とするが、適当な用語がない場合はこの限りではない。

### 5. ファイルサイズ（容量）の制限

ファイルサイズは 3 MB 以内とする。3 MB を超えたファイルは受信しない。提出するファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティは設定しない。

## 電子投稿用原稿作成上の注意

### 1. ファイル形式

電子原稿は Adobe Reader で表示および印刷可能な PDF（Portable Document Format）ファイルで提出してください。

### 2. ファイルサイズ（容量）の制限

ファイルサイズは 3MB 以内とします。3MB を超えると受信いたしません。またファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないでください。

### 3. ファイル名について

必ず拡張子（.pdf）がついているファイルをお送りください。

### 4. 提出方法

提出方法はインターネットによる発表申込みの画面で送信してください。メール添付による提出はできません。

### 5. 作成するアプリケーションと OS

原稿を作成するアプリケーションの制限はありません。OS は Windows 2000 以上または Macintosh 10.2 以上を推奨します。

### 6. PDF ファイルの作成方法

PDF ファイルは、原則として Acrobat 6.0 以降（または同等品）を用いて作成します。作成方法についてはソフトに付属のマニュアルまたはホームページ上の執筆要項をご覧ください。

Acrobat の詳細については <http://www.adobe.com/jp/> をご覧ください。

### 7. 使用できるフォントの制限

投稿された PDF ファイルは Windows または Macintosh 上で稼働する DVD に掲載されますので、原稿内に使用するフォントは以下に限定してください。

OS	Windows	Macintosh (OS10.2 以上)
日本語フォント	MS 明朝または MS ゴシック	MS 明朝、MS ゴシック、ヒラギノ
英字フォント	Arial, Century, Helvetica, Symbol, Times, Times New Roman	

※ どうしても他のフォントを利用したい場合は、PDF 作成時にフォントの埋込みを行ってください。

### 8. 使用できる文字

コンピューターの機種により文字化けが発生する可能性がありますので、漢字コードは第二水準以内の文字をお使いください。特に Windows をお使いの場合で、人名辞書にある「高」や「崎」など第二水準にはない文字がありますので、注意してください。

### 9. 色使い

本文の文字を黒色とするほかは、色使いの制限は特にありません。ただし、冊子版梗概集はモノクロで印刷しますので、色によっては明確に出ない場合がありますので十分注意してください。

### 10. 写真や画像などの解像度

写真や画像を含む場合、PDF 化することにより、出力品質が劣化することがあります。ファイルサイズ制限内で、PDF 化する際のジョブオプションの値を高くして作成してください。

詳細はホームページ上の執筆要項をご覧ください。

### 11. 印刷の確認

作成した PDF ファイルは一度プリンターで印刷し、執筆者の意図どおり印刷されることを確認してください。

### 12. その他

応募上の注意、発表申込書記入要領、電子投稿要領は、学術講演会と共通です。